



JRA

THE KOKURA DAISHOTEN

第59回 小倉大賞典 (GⅢ)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着
本 賞 43,000,000円 17,000,000円 11,000,000円 6,500,000円 4,300,000円
付加賞 490,000円 140,000円 70,000円



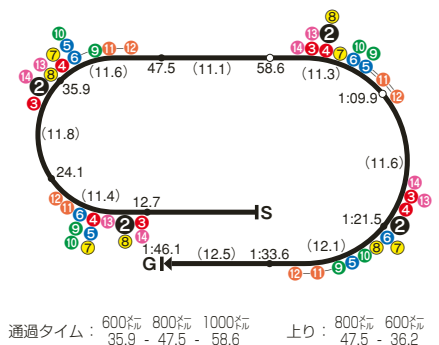
レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

4歳以上、2024.2.17以降2025.2.16まで1回以上出走馬、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 ハンデキャップ

2025.2.23 小倉 曇・良 芝1800m (国際) 特招

着順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	②	ロングラン	騾7	57	丹内祐次	1:46.1	10-11-8-9	34.0	478(-8)	6.6④	和田勇介(美浦)	109
2	⑩	ショウナンアディブ	牡6	55	丸山元氣	クビ	3-4-5-5	34.3	520(+10)	12.7⑦	高野友和(栗東)	104
3	④	ラケマーダ	牡5	55	秋山稔樹	1¼	10-9-8-6	34.3	496(-6)	32.0②	千田輝彦(栗東)	102
4	⑫	セルバーク	牡6	57	和田竜二	クビ	1-1-1-1	36.4	446(+2)	26.6①	鈴木孝志(栗東)	106
5	⑦	エビファニー	牡6	58.5	杉原誠人	クビ	6-7-7-7	34.5	502(-6)	5.5②	宮田敬介(美浦)	
6	④	マテンロウオリオン	牡6	56	古川吉洋	クビ	6-7-8-10	34.4	486(-2)	23.3⑩	昆 貴(栗東)	
7	⑥	グランドカリナン	牡5	55	大野拓弥	アタマ	3-4-5-7	34.7	452(±0)	17.6⑧	田島俊明(美浦)	
8	③	シルトホルン	牡5	57	吉田隼人	½	12-13-11-11	34.3	476(-6)	4.4①	新開幸一(美浦)	
9	⑨	コスモブッドレア	牡4	55	佐々木大輔	1½	3-3-3-3	35.3	494(+6)	9.1⑤	小野次郎(美浦)	
10	⑪	ヤマニンウルス	牡5	58.5	藤懸貴志	¾	2-2-2-2	36.3	600(+9)	6.4③	斉藤崇史(栗東)	
11	⑭	エアファンディタ	牡8	57.5	酒井 学	アタマ	12-11-13-13	34.5	460(-10)	17.9⑨	池添 学(栗東)	
12	⑮	ギャラクシーナイト	牡6	56	菊沢一樹	2½	9-9-11-11	35.1	506(-2)	32.1⑬	菊沢隆徳(美浦)	
13	⑤	ホウオウブロンサンゲ	牡4	55	小沢大仁	ハナ	6-4-3-4	35.9	490(-2)	10.3⑥	矢作芳人(栗東)	
取消	①	タマモブラックタイ	牡5	55	角田大和						角田晃一(栗東)	

単勝②660円(4¼%) 複勝②220円(2¼%) ⑩380円(7¼%) ⑥760円(12¼%) 枠連②-⑥1,760円(10¼%)
馬連②-⑩3,990円(16¼%) ワイド②-⑩1,220円(10¼%) ②-⑥2,630円(41¼%) ⑧-⑩4,510円(61¼%)
馬単②-⑩7,920円(33¼%) 3連複②-⑥-⑩31,050円(135¼%) 3連単②-⑩-⑥160,400円(676¼%)



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m
35.9 - 47.5 - 58.6 47.5 - 36.2

アラカルト

- ・丹内祐次騎手は小倉大賞典初勝利。JRA重賞は本年2勝目、通算8勝目
- ・和田勇介調教師は小倉大賞典初勝利。JRA重賞は通算3勝目
- ・ヴィクトワールピサ産駒はJRA重賞通算8勝目
- ・7歳馬の勝利は23年ヒンドウタイムズに続く通算8回目
- ・驕馬の勝利は23年ヒンドウタイムズに続く通算6回目
- ・ヤマニンウルスの馬体重600kgは71年ヤマアオバの馬体重560kgを更新する本競走出走馬の最高馬体重記録
- ・タマモブラックタイは疾病[右前肢挫創]のため出走取消

ロングラン Long Run

騏 鹿毛 2018.2.9生
北海道千歳市 社台ファーム生産
馬主・梅澤明氏 美浦・和田勇介厩舎
馬名意味・長く元気に走ってほしい

ノッテビアンカFR系 F16-c

ヴィクトワールピサ 黒鹿毛 2007	ネオユニヴァース 鹿毛 2000	サンデーサイレンスUSA ボイントッドパスGB
	ホワイトウオーターアフェアGB 栗毛 1993	Machiavellian Much Too Risky
ノッテビアンカFR Notte Bianca 鹿毛 2013	Kendargent 芦毛 2003	Kendor Pax Bella
	Biancarosa 鹿毛 2007	Dalakhani Rosa di Brema

5代までのインブリード：Halo S4×S5

INTERVIEW

東礼治郎場長(社台ファーム)

しばらく存在を誇示してくれると信じています

デビューから25戦目での初重賞制覇となりましたが、和田勇介厩舎の皆さんが馬の成長を導き続けてくださったこと、過去2年の悔しさを晴らした丹内騎手の素晴らしいエスコートのおかげでここに至れたのだと思います。このレースで4、2、1と着順を上げてきたようにまだまだ力を感じますし、名前のとおり、しばらくその存在を誇示してくれると信じています。

T.Mori



なでもロングランは一枚上の決め手を発揮。馬場の真ん中を伸びたショウナンアディブをクビ差に捉え、スリリングな攻防に競り勝った。
ダートで未勝利、1勝クラス戦を勝ち上がった本馬は、芝路線に転じて頭角を現し、4歳時に2、3勝クラス特別を連勝。オープン入り後はリステッドの1勝にとどまっていた半面、2年前の小倉大賞典4着、昨年は2着に食い込むなど、重賞の舞台でも上位入着を重ねてきた。この日は三度目の正直を果らせて快走。「長く元気に走ってほしい」との願いが込められた馬名の通り、息の長い活躍が続けてきた古豪が念願のタイトルを掴み取った。

父ヴィクトワールピサ

北海道千歳市 社台ファーム生産 中央、仏、首15戦8勝(ドバイワールドC・首^{G1}、皐月賞^{G1}、有馬記念^{G1}、中山記念^{G2}、弥生賞^{G2}、ラジオNIKKEI杯2歳S^J_Ⅲ、日本ダービー^{G1}3着、ジャパンC^{G1}3着)、12年から供用、21年輸出(トルコ)〔代表産駒〕ジュエラー(桜花賞^{G1})、アサマノイタズラ(セントライト記念^{G2})、スカーレットカラー(アイルランドトロフィー府中牝馬S^{GⅡ})、ウィクトーリア(フローラS^{GⅢ})、ロングラン(本馬)、コウソクストレート(ファルコンS^{GⅢ})、ウォーリングステイツJPN Warring States(バイエルンクラシック・独^{G3})、ブレイキングドーン(ラジオNIKKEI賞^{GⅢ})、レッドアネモス(クイーンS^{GⅢ})、ミッシングリンク(TCK女王盃^J_Ⅲ)、ミヤジコクオウ(鳳雛S・L、レバードS^{GⅢ}2着)、アクアミラビリス(エルフィンS・L)

母ノッテビアンカFR

仏5戦1勝(アイソノミー賞・L2着、クリテリウムドサンクルー^{G1}3着)、16年輸入

ダイワセントライト(17 牡父Le Havre)持込 中央7戦0勝、障害5戦0勝

ロングラン 本馬(18 騏父ヴィクトワールピサ)中央24戦6勝(小倉大賞典^{GⅢ}、ディセンバーS・L、レインボーS、三木特別、小倉大賞典^{GⅢ}2着、カシオペアS・L3着)、地方1戦0勝 獲得総賞金160,588,000円

(19 牝父ハーツクライ)

ランプシー(20 牡父ハーツクライ)中央12戦2勝

パンジャ(21 牡父ゴールドシップ)中央13戦2勝 ②

ボンヌソワレ(22 牝父レイデオロ)中央5戦1勝 ②

(23 牝父レイデオロ)

(24 死産)

祖母ビアンカローザ Biancarosa

アイルランド産 英、伊3勝(マリネ共和国賞・伊L)

ノッテビアンカFR(13 前出)

トウキョウゴールド Tokyo Gold(18 牡父Kendargent)北米、伊、仏3勝(伊ダービー^{G2}、クリテリウムデルエスト・仏L、ベルモントダービー招待S・米^{G1}2着)

曾祖母ローザディブレマ Rosa di Brema

イタリア産 伊6勝(伊オークス^{G1}2着、アルキメディア賞・L3着)、**ローザデルドバイ**IRE(マリオインチャーザ賞・伊^{G3})、**ロランド** Rolando(コンビーニユ大賞・仏L、ビアツァーレ賞・伊^{G3}3着)の母、**フォレガ**GB(伊オークス^{G2})の祖母、**リージョナル** Regional(スプリントC・英^{G1})の曾祖母

息の長い活躍の末に初の勲章を獲得

今年は6週間の日程が組まれた冬の小倉開催もいよいよ大詰め。その看板といえるGⅢ重賞・小倉大賞典は、前哨戦の小倉日経賞の2着馬シルトホルン、連覇に挑むエビファニー、ダート路線から芝へ矛先を転じてきたフロキオンSの覇者ヤマニンウルスなどが差のない支持を集め、上位拮抗の様相を呈した。ハンデ戦らしい混戦ムードに断を下したのは、中心勢力の1頭と目されていた4番人気のロングラン。7歳の古豪が2着に終わった1年前の雪辱を果たし、初の勲章を獲得した。2年前の中京記念の覇者セルバークが、3着に逃げ粘った昨年に続いて今年も先制。2コーナーから次第にリードを広げ、大逃げる態勢に持ち込む。初の芝コースでもスツと行き脚がついたヤマニンウルスが離れた2番手につけ、エビファニーは中団で折り合いに専念。ロングランの丹内祐次騎手は後方のインで脚を溜め、スタートで立ち遅れたシルトホルンはさらにその後ろ、後方2番手を進んだ。

緩みのないラップを刻みながらも、軽快に飛ばしたセルバークは直線を迎えても後続を寄せ付けず、大きな見せ場をつくる。しかし残り200m地点を過ぎてからレースは急展開。脚色が鈍った逃げ馬に、5番手を追走してきたショウナンアディブと、4コーナーで馬群の外へ持ち出され、追撃にかかったロングランが猛然と襲い掛かる。

なかでもロングランは一枚上の決め手を発揮。馬場の真ん中を伸びたショウナンアディブをクビ差に捉え、スリリングな攻防に競り勝った。

ダートで未勝利、1勝クラス戦を勝ち上がった本馬は、芝路線に転じて頭角を現し、4歳時に2、3勝クラス特別を連勝。オープン入り後はリステッドの1勝にとどまっていた半面、2年前の小倉大賞典4着、昨年は2着に食い込むなど、重賞の舞台でも上位入着を重ねてきた。この日は三度目の正直を果らせて快走。「長く元気に走ってほしい」との願いが込められた馬名の通り、息の長い活躍が続けてきた古豪が念願のタイトルを掴み取った。